

第2章 小学校入門期の生活習慣・学習習慣

幼稚園・保育園・こども園から小学校に入学してくる時に、子供たちの生活習慣などの身に付き方については一人一人違ってきます。そこで、小学校生活を始めるにあたっては、様々なやり方や方法を丁寧に教えながら、生活習慣や学習習慣がしっかりと身に付くよう指導をしていくことが、その後の小学校生活への円滑な接続についてとても大切になります。

入学式の翌日からの過ごし方の例について

予定	活動内容
登校	<ul style="list-style-type: none"> 登校班で登校する。 靴箱で靴をそろえて入れる。
朝の時間	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物をロッカーに入れる。 教室で自分の席に座って待つ。 トイレ、水のみ場所を確認する。
1時間目	<ul style="list-style-type: none"> 出席をとる。 「きょうからじぶんでがんばるよ」 あいさつ、返事、話の聞き方を確認する。 朝の準備の仕方、ランドセルの中身の出し入れを確認する。 靴箱、ロッカーの使い方を確認する。 道具の点検。 持ち物の名前調べ。 名札の付け方、はずし方。
2時間目	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなとなかよくしよう」 友達となかよくしよう。 隣の友達と互いに自己紹介する。 並び方。 「学校大好き」 水飲み場の使い方。 トイレたんけん、トイレの使い方。 「うたとともだち」 みんなで歌おう。
3時間目	<ul style="list-style-type: none"> 「きょうからじぶんでがんばるよ」 配布物の扱い方。 連絡帳の出し方、しまい方提出物の扱い方。 下校の準備・仕方地域班を知る。 地域班下校の並び方。
下校	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの支度をする。 下校の準備をする。 地域班で並ぶ。 地域班ごとに集団下校。

靴をそろえている児童を認めましょう。

入学当初の朝の時間には6年生の補助があるとよいですね。

全員での自己紹介は後にして、隣の児童との簡単な自己紹介ができるようにしましょう。

連絡袋の使い方や、配布物などの扱い方を丁寧に説明して、できているかを確認しましょう。

ランドセルのリボンの色を確認して順番に並ばせるようにします。自分の班が覚えられるようにします。室内で並びときは、靴をもってきて並ぶなど工夫して玄関で混乱しないようにしましょう。

教師は玄関に出て、笑顔で児童を向かえましょう。

話の聞き方や荷物のしまい方など、始めの不安を取り除くように丁寧に説明しましょう。

トイレの場所、使い方の確認をします。何かあっても恥ずかしながら先生に知らせるように伝えます。

時間はかかりますが、一人一人のしまい方を確認して、できていなかったらやり直しをさせ、できたらほめましょう。

細かいことまで、一度に説明をしてもすぐには身に付きません。入学した当初は、子供たちに伝えることがとても多く、つい急いでしまいがちになりますが、伝える内容を選び、焦点化して、分かりやすく、丁寧に、一つ一つ時間を取って、ゆっくりと行っていくようにしましょう。

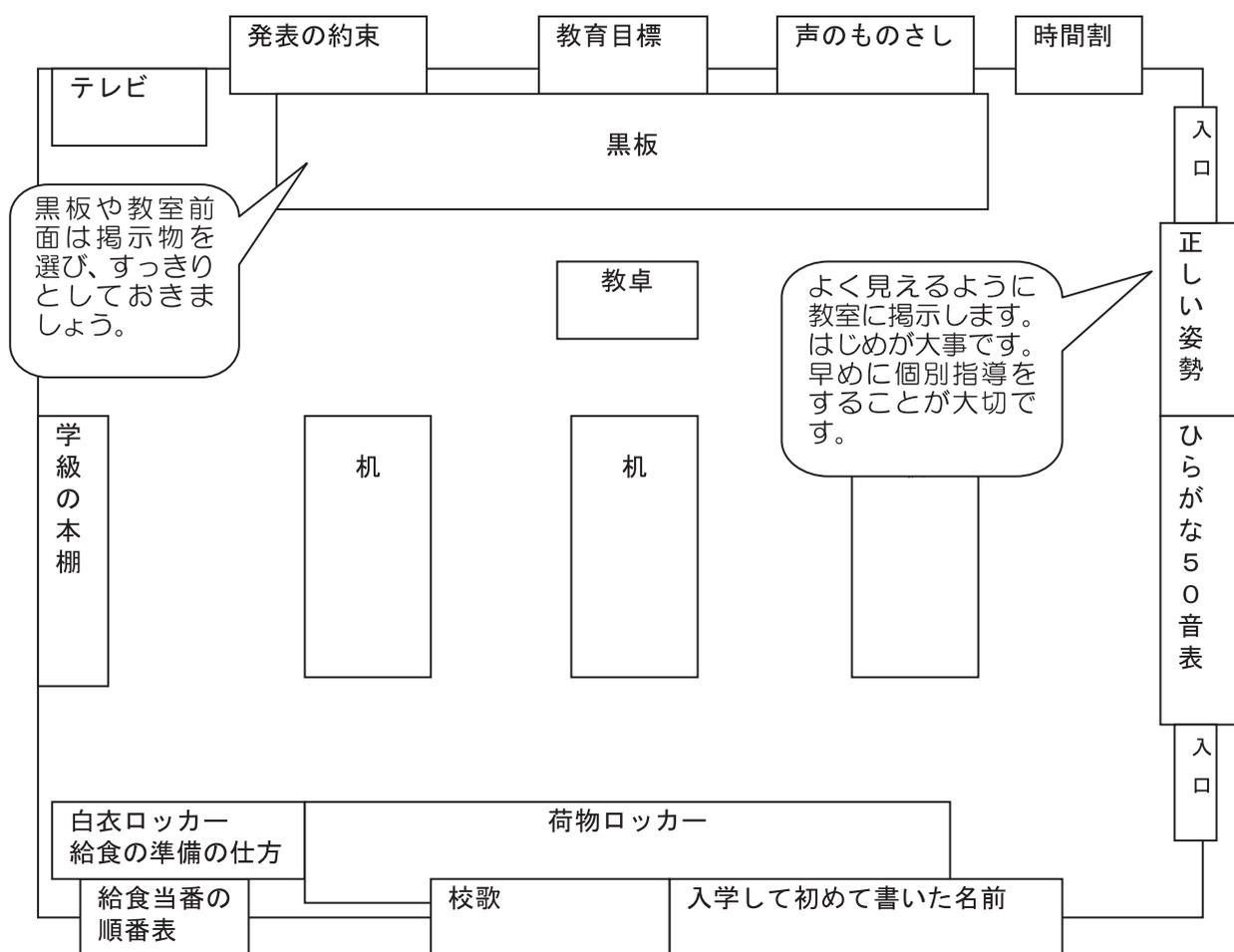
入学したばかりで新しい環境の中、子供たちは不安感をもっていたり、緊張したりしています。これから新しい環境に入ろうとする一人一人の子供の特徴を十分理解し、子供との信頼関係を丁寧に築いていくことが求められます。何よりも小学校の生活が楽しく感じられるように、常に温かな雰囲気の中で指導を進めていくようにしましょう。

ここでは入学後に大切になる生活習慣や学習習慣について、具体的に項目をしぼって次に示しました。幼稚園・保育園・こども園でも、これらについての段階的な指導がされているものもあります。共通している点もありますが、異なる点もあります。幼児期の保育・教育での経験をふまえ、1年生になった早い段階で、しっかりと身に付けていくように指導していきましょう。

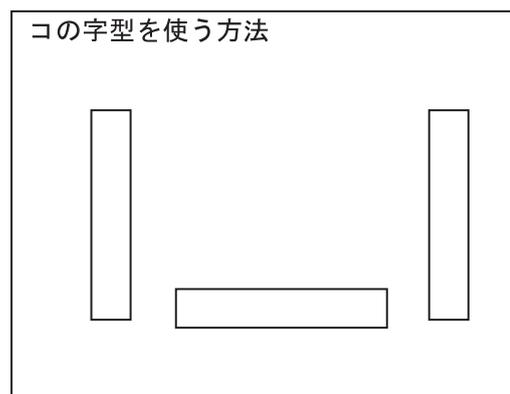
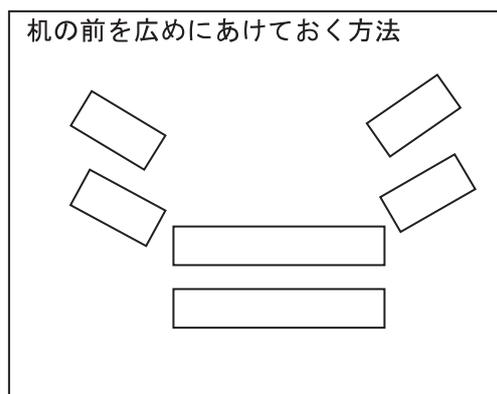
教室環境について

児童が楽しく、安心して小学校生活に慣れていけるようにするためにも教室の環境はとても大切です。さまざまな工夫をして教室環境を構成していきましょう。入学当初は、6年生の児童に手伝ってもらって入学をお祝いする雰囲気づくりをするとよいでしょう。

その後は、毎日生活する生活の場でもありますので、生活習慣や学習習慣が自然に身に付いていくように教室環境を考えていくこととともに、特別支援教育の視点も踏まえて集中できるように、児童の視界に入りやすい教室前面や黒板は、すっきりとした掲示にするなど工夫して、日々環境を見直していくことが大切になります。



連携を取りながら、落ち着いて取り組める机の場所を探していくようにしていくことが大切です。



集まる場の作り方について

入学当初の学校生活や学習活動を円滑に進めていくには、「柔軟な環境づくり」を重視していくことが大切になります。

教室でのいろいろな活動のなかでは、いつも机と椅子で同じ場所での活動を行っていくよりも、ときには、場所を移動して、大きな掲示物の前に集まったり、椅子だけを自分で持ってきて、円形に集まったりするなど、活動の内容や状況に応じて、いろいろな場をつくる工夫をしていくことが大切です。これによって、集中力が高まったり、友達のとかがかわりが広がってきたりして、学習や生活にも意欲的に取り組めるようになっていきます。

それぞれの活動の内容や、学校の建物、教室の構造などを考慮した上で、いろいろな工夫をして、学級での活動が楽しく行えるようにしていきましょう。

教室の前に集まる

黒板の前のスペースをあけて、床に体育すわりをする集まり方です。掲示物をみんなで見ながら意見を言うときや、絵本の読み聞かせをするときなどに活用してみましょう。

集まり方

- 1 始めに、教室の机の二列目の子供を立たせて、椅子を後ろの三列目の机につける。
- 2 自分の机を後ろの机につける。
- 3 二列目の児童は、前に出てきて、黒板の前に体育すわりをする。
- 4 一列目の子供も同様に立ち、椅子と机を後ろに下げて、二列目の机につける。前に出てきて、黒板の前に座っている二列目の児童の後ろに体育すわりをする。
- 5 三列目、四列目の児童はそのまま、立って前にきて、二列目、一列目の子供の後ろに体育すわりをする。

オープンスペースなどに集まる

学校の建物の構造によっては、「オープンスペース」などがある場合があります。学年全体で校歌を歌うときや、地域班の説明をするとき、あるいは、「1年生を迎える会」の練習や並び方の説明をするとき、また、立ったり座ったりする活動がある場合など、活動の内容に応じて、この「オープンスペース」をうまく活用して、全員で集まって気分を換えて、効果的な活動ができるようにしていきましょう。

教室の自分の席から移動するときには、安全に配慮するとともに、順序よく移動することや、机の中に椅子を入れて、すばやく、話をしないで並ぶなど、注意点を分かりやすく指示しながら、できた児童を認めて見本としていくなど工夫をしながら指導を重ねていき、次第にすばやくできるようにしていきましょう。また、いつも並ぶ場所には、ビニルテープなどで目印を付けて、色を変えておくなどすることで、いろいろな状況に応じて活用することができるようにしておくとよいでしょう。

「ほっとできるコーナー」について

幼稚園・保育園・こども園では、学校のように時間割に従って活動するのではなく、おおまかな時間のくくりの中で活動する場面が多くあります。一日の生活の中で、戸外や室内での活動を、子供たちの興味関心に添いながらバランス良く計画して、メリハリのある生活を体験させていきます。絵本を見て、静かにしたいとき、横になりたいとき、けんかをしたときに気持ちを立て直すときなどの場所などとして、部屋の一角に落ち着けるスペースを設ける工夫をしている園などもあります。

慣れない環境で過ごすことへのストレスの解消として、学校の中にほっとできる場、「ほっとできるコーナー」を設定すると小学校への円滑な接続の一助になることがあります。建物の構造を考慮して、検討してみたいかがでしょうか。

コーナーを作る

「ほんのコーナー」

中央図書館などの団体貸し出し、「サービスパック」などを利用して、季節に応じた絵本を用意して、座って読む場所を作ってみてはどうでしょうか。

「小動物・植物コーナー」

小動物を飼ったり、動植物の絵本や図鑑を置いたり、花をいけたり、鉢を置いたりするなどしてはどうでしょうか。

「ほっとできるスペース」

オープンスペースがある学校では、活用を工夫してみましょ。平面のダンボールを使用して、コーナーのスペースを簡単に仕切ることができます。



生活習慣について

幼稚園・保育園・こども園と小学校の生活については、一日の保育・教育時間の長さや区切りの仕方が違います。小学校では1時間目、2時間目というように時間によって生活が区切られています。こうした区切りで行動することも段階を追って指導していくことが大切です。

時間を区切った学習時間については、入学当初は15分間を1コマとして、弾力的な運用をしながら、次第に45分間の学習に慣れて行くようにしましょう。休み時間やトイレ、水飲みの時間なども意図的に設定してあげるようにすることが必要です。

集中力がなくなってきたときには、気分転換などを適宜取り入れて行くような取組も必要になります。子供たちの学校生活が円滑に移行するために、様々なことに配慮をしていくことが必要になります。教室での学習規律を参考にして指導をしていきましょう。

がっきゅうのやくそく

- 1 あいさつをする
- 2 わすれものをしない
- 3 もちもののせいりせいとんをする
- 4 じかんをまもる
- 5 マナーをまもる
- 6 てあらい、うがいをきちんとする
- 7 あとしまつができる

「がっきゅうのやくそく」の例

あいさつ

元気なあいさつで、さわやかに一日をスタートさせましょう。

「おはよう、〇〇さん」と名前を呼んであげましょう。握手をしたり、一言声をかけてあげたりすることで、子供たちからも反応があり、信頼感も増してきます。

自分から「おはようございます」とあいさつができている子供を認めてあげましょう。

昼は、校長先生や他の先生に会ったときなどは、「こんにちは」や、帰りは「さようなら」が言えるように指導します。

「ありがとう」や「ごめんなさい」もあいさつの一つとして指導をしていくとよいでしょう。道徳の時間などを使って、「気持ちのよいあいさつ」について考えてみたり、実践してみたりするなど、具体的に示していくことは大切です。また、特別支援教育の視点から「よい例」と「よくない例」を分かりやすく見せてあげることもよいでしょう。できた子供にはその場で認めていくことも大切になります。

忘れ物

幼稚園・保育園・こども園に比べて、小学校生活では、持ち物がたくさんに増えてきます。

次の日の準備を毎日決めた時間にするように指導をしましょう。忘れ物の指導をするときには、いくつか項目をしぼって、呼びかけるとよいでしょう。また、「もちもの がんばりカード」などを作って項目を示していくこともよいでしょう。

忘れ物の指導については、家庭の協力も必要です。家庭にも分かりやすいように、持ち物についてあらかじめ余裕をもって示していくことが大切です。「学年だより」などをこまめに出していくようにしましょう。忘れ物が重なっている児童については、なぜそうなっているのか、理由や原因について、丁寧に聞いてあげて次はうまくいくように、あらかじめ家庭と連絡をとるなどの配慮をしてあげることも必要になります。うまくできたときには家庭にも報告をするなど、保護者との連携をさらに深めていきます。

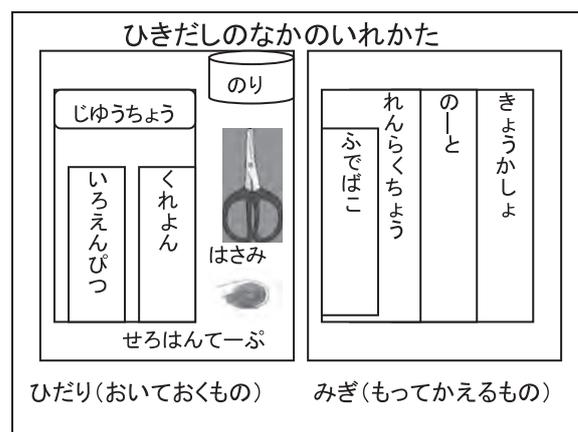
机の中

入学式当日には、引き出しのなどの用意をして、学校で用意したもののほかに、その中に何を準備するか、そして、一つ一つに記名をしていくことを保護者に伝えていくことが大切です。入学式の次の日から、持ち物や記名についての点検を行っていき、適宜、持ち物や記名の確認をしていくことが大切です。

筆箱の中

- 鉛筆(Bまたは2B)は削ったものを4本ぐらい
- 赤鉛筆1本
- 消しゴム
- ものさし(筆箱に入るくらいの長さのもの)
- 名前ペン(フェルトペン)など

引き出しの中身の図を示して、毎日確認するように習慣付けていきましょう。説明だけでは分かりにくいので、絵や図を掲示しておくとうまくいきます。中身の整理が苦手な児童については、最初は教員と一緒に整理をしてあげて、整理のやり方を伝えていくことも必要です。



引き出しの中の入れ方の例

連絡袋やプリント入れ

1年生になると、学級で配るプリントがたくさんあります。すばやく、確実にしまうことはとても大切になります。

プリントの配布と連絡袋にしまう手順の例

- 1 机の列の前の人から後ろの人へ、「はい、どうぞ」、「ありがとう」と言って、プリントを手渡す。プリントの角が後ろの児童の目に入らないように安全に気をつけて、乱暴に扱わないように指導します。
- 2 プrintの四隅をそろえて二つ折にして、透明の連絡袋に入れる。
- 3 始めのうちは、児童に入れた袋を上へ挙げさせて、確認して「合格」などと認めてあげると、次第に慣れてきます。

入学当初は、配布するプリントが何枚もありますが、一度に配ると混乱します。一日の中で、いつ配るか、見通しをもって配布をしていくようにしましょう。特別支援教育の視点から、まだ手先を器用に動かせない児童もいます。プリントを折ることや、連絡袋に入れることができない子供もいます。場合によっては、教員や友達の援助を得てもいいことを伝えていきましょう。児童の実態に応じて、進捗状況を把握して待ってから全体の活動を進めていくことも、やる気につながっていきます。

持ち物の整理整頓

小学校に入学すると、自分の持ち物がとても多くなります。決まったものを決まった場所にきちんと置いておくことがしっかりとできることで、道具が使いやすくなり、生活や学習も円滑に進むようになっていきます。

毎日の流れの例

- 1 朝、学校へ着いたら、決められたところへ決められたものを提出します。
- 2 宿題、連絡帳、その他の提出物などは、かごや箱、コーナーなどをつくり、「この場所にいつも出す」という約束をしていくと分かりやすく、忘れずに、円滑な生活が送れるようになります。
- 3 持ち帰るものと、学校においておくものとははっきりと分けましょう。
- 4 机の引き出し、ロッカーに、何を、どう入れるのかを決めておき、習慣付くまで、時々点検や指導をする機会を設けるようにしましょう。

持ち物がうまく整理できない児童には、「防災頭巾は椅子の後ろにかける」、「雑巾は机の横にかける」など、決めたことを写真やイラストで示して視覚的な補助を示すことで分かりやすくなります。片付けが苦手な子供には、場合によっては専用の大きな箱を用意して、まず片付けることの意味や気持ちのよさを味わわせるようにしましょう。

■ 時間を守る

小学校はチャイムの合図で、行動することが多いですが、時計を見て行動できるようにさせると、次の行動についての見通しをもつことや、予測をした動きができるようになります。

幼稚園・保育園・こども園でも「長い針が〇になったら」という指示を受けている経験があります。小学校の入学当初は、時計を読む学習はまだ、行っていませんので、このような指示の仕方をうまく使っていこうにしましょう。また、学校全体で、「ノーチャイム制」を実施している場合などは、段階的にチャイムが鳴らないなかで生活の時間を、身に付けていこうに工夫していきましょう。

次の時間の学習の用意をしてから、休み時間にするようにしていくと、休み時間から学習へ円滑に入っていくことができます。学習の終わりのあいさつのときに、次の時間の学習の用意をするように習慣づけていこうにしましょう。

入学当初には、「この休み時間」は、中休みなどの「長い時間の休み時間」か、5分間程度の「短い時間の休み時間」か、次の学習の連絡、トイレの確認などと合わせて伝えておくとよいでしょう。

特別支援教育で行われているように、時計の写真やイラストで、時刻を示したり、タイムタイマーなどを使って、時間の感覚を視覚を通して理解させることも有効です。



「休み時間は長い針が5までです。」と具体的に伝えましょう。

■ 教室や保健室の表示

小学校は幼稚園・保育園・こども園と建物の構造が大きく異なります。入学したばかりの児童は、小学校の建物自体が広く、大きいという心理的な不安や混乱が考えられます。

併せて、この時期の子供は、位置関係の感覚が未発達なこともあります。例えば、トイレから戻るときに左右が逆になり、教室が分からなくなることもあり、このことが、小学校生活の不安や戸惑いの一つの要因になることが考えられます。

教室の入り口に絵や写真をはって分かりやすく表示しましょう。

校庭でけがをしたときに保健室の位置が分からなかったり、担任の先生がいる職員室へは、どのように行ったらよいか、戸惑ったりすることもあります。毎日生活する場で、行きたいところへ迷わずいけることが、自信をもって行動することにつながっていきます。

保健室にもマークをつけましょう。

入学当初に、養護の教員に1年生の教室に来てもらうなどして、「保健の先生」の役割を知らせたり、顔を覚えたりしてもらうようにしましょう。気分が悪いことも最初は緊張して言いづらいものです。養護教諭には、保健室がどのようなところかを具体的に話してもらい、安心感をもたせるようにしましょう。

保健室のマークの例



■ トイレや水飲み場・流しの使い方

トイレの使い方については、入学式の翌日に学級活動として、場所と使い方、使う時間などを知る活動を組むことがよいでしょう。「トイレの場所を確認する ⇒ トイレの使い方を説明する ⇒ 使い方を練習する」という流れで、15分間くらいで行うのがよいでしょう。また、靴箱や傘立ての場所や使い方を教える活動と合わせて行うこともよいでしょう。

学校の施設、設備の使い方については、話を聞いて教わるよりも、学校の探検活動として、児童が自分の目で見て、幼稚園・保育園・こども園との違いを発見し、使い方をみんなで考える方法を取っていくようにするとしつかりと定着していきます。

学校の施設や設備を知るための学校探検の第一段階として、「トイレのたんけん」を位置づけて、探検のわくわくする気持ちを大切に活動として実施していくとよいでしょう。

トイレの使い方の例



靴箱や傘立ての使い方に加えて、ランドセルのしまい方、引き出し、お道具箱の使い方などについては、イラストや写真などを掲示して、視覚的に訴えながら、正しい使い方を子供に考えさせることで、より確実に理解していくようにしましょう。

靴箱の入れ方の例の写真



学校の設備や施設の使い方については、学級活動や生活科の学習で扱うことが多くなります。新しい環境の中で、使い方やルールを一度に全てを覚えることは、入学直後の子供にとっては、かなり難しいものがあります。

教員の話聞くだけではすぐに理解できないことも多くあります。そこで、設備や施設の使い方や学校のルールを定着させるには、各教科や領域の中に意図的に学校生活のいろいろな場面で繰り返し学ぶことができるような活動を設定するとよいでしょう。例えば、廊下の歩行については、初めての「がっこうだいすき」のときに考えさせ、2回目以降の際に約束として常に意識させたり、身体計測が終わって、教室に戻るときに、一人で正しく歩行ができたかどうかを後で、振り返ったりすることが考えられます。

また、固定遊具の使い方については、生活科の学校探検や体育の固定遊具の遊びの際に、使い方やマナーを考えさせるとともに、道徳の時間に学校生活の約束を守ったり、安全な学校生活を送ったりできるようにするための話し合いをすることも効果的です。

学習規律・生活規律について

児童が小学校の新しい環境の中で、安心して学習に取り組めるようにするためには、一人一人が確実に、学習に臨む態度やきまり、学習規律などを身に付けていくことが必要になります。

幼稚園・保育園・こども園から継続して指導をするものに加えて、小学校で新たに指導が必要なものもあります。教室内での学習規律を参考にして指導をしていきましょう。

幼稚園・保育園・こども園から継続して指導する事項

- ☑ 話の聞き方や話し方
- ☑ あいさつや返事の仕方
- ☑ 椅子の座り方 など

小学校で指導する学習規律

- ☑ 教科書、ノート、鉛筆など使い方
- ☑ 机の引き出しなど、持ち物の管理
- ☑ 時間内での学習 など

継続的、段階的な指導

話の聞き方

まず、「聞く力」の基礎になる話の聞き方について、しっかり指導していきましょう。

その際には、幼稚園・保育園・こども園での指導から継続的、段階的な指導をもとにして進めていくようにしましょう。

慣れてくるまで、聞き方や発表の仕方についてパターンを決めていくとよいです。

特別支援教育の視点から、注意が散漫な児童については、「今から話を始めるよ」と肩をたたいてみたり、絵カードを視野に入れたりすると話を聞く意欲が高まります。

ききかた「あいうえお」
「あ」 あいてをみて
「い」 いっしょうけんめい
「う」 うなずきながら
「え」 えがおで
「お」 おわりまでしっかり
ききましょう。

話の聞き方の表示の例

見通しがもてる表示や工夫

生活や学習活動についての見通しがもてるように、その内容や時間の流れなどについて絵や図などで掲示することや、「学習時計」やタイムタイマーなどを活用していくと児童が見通しをもつことができ、安心して学習活動に取り組むことができるようになります。いろいろな工夫をしてみましょう。

きょうのよてい
1 おはようタイム
2 どうぐばこのつかいかた
3 といれのつかいかた

学習規律を身に付けさせるために、活動の流れを絵や図で掲示したり、学習時計で時間を示したりするなど、児童が見通しをもち、すすんで学習に取り組めるような工夫をしましょう。



針を動かして時刻を示します。

タイムタイマー



段階を追って、「3分間で着がえましょう。」と活用して意欲をもたせましょう。

着替えの仕方

入学して初めての身体計測のときに、体育着への着替えを練習するようにしましょう。狭い場所で、一定の時間内に着替えを終わらせることは難しい児童も多くいるでしょう。床にすわらないと着替えられない児童や、脱いだものを散らかしたままにしてしまう児童などいることが考えられます。

1 着替える順番を上着から脱ぐ ⇒ 2 たたんで体育着袋に入れる ⇒ 3 シャツを脱ぐなどの手順を示しながら練習をすることが有効です。

身体計測の場合は、靴下の脱ぎ方やそれをしまう場所などについても、「靴下は脱いで体育袋へ入れます。」などと細かく指示を伝えることが大切です。

給食の準備、食べ方、片付け方

小学校で児童が給食の準備や後片付けに慣れるまでは、学級活動などを使って、時間を十分に確保して、「みんなでじゅんぴ たのしくたべる みんなでかたづけ」を合言葉に、協力して楽しい給食時間になるように指導します。

学校栄養士などと連携を図りながら、安全に手際よく準備できるように、紙芝居やパネルシアター、大型画面テレビなどを使って、仕事の手順を丁寧に教えていくことが有効です。また、給食当番は1週間交代で行うようにして、当番の仕事を順番に経験して、覚えられるようにするとよいでしょう。

このほかにも具体的に給食の準備や食べ方、片付け方について、その方法、手順などを事前に指導しておきましょう。

栄養士のお話



事前に指導しておくことの例

- ◻ 給食の机、班の机、食べるときの机の並べ替えの方法
- ◻ テーブルクロスやしき方
- ◻ 配膳台の上の食缶の並べ方
- ◻ 給食のもらい方、並び方
- ◻ おかわりの仕方
- ◻ 牛乳パックのたたみ方
- ◻ ストロー袋やストローの捨て方
- ◻ 食べ終わった後の片付け方
- ◻ 給食当番の役割と分担
- ◻ 残菜の片付け片
- ◻ 配膳台の片付け方

トイレと手洗い、うがいをすませたら、座って静かに待ちましよう。

危険のないように、おしゃべりをしないで落ち着いて配膳します。お盆が重くなるので、両端の中央を持ちます。牛乳は直接机に配ります。

給食開始からしばらくは、学校栄養士や補助の教員に入ってもらいようにしましょう。配膳や片付けについては、安全面に配慮して、教員が確認の上、適宜、補助するようにしましょう。

給食後の歯磨きについては、水飲み場の状況などと合わせて、学校全体の取組として考えていく必要があります。養護の教員とともに、段階的に進めていくようにしていきましょう。

手洗いやうがい

休み時間が終わったあと、教室に戻る前に、手洗いやうがいをするように習慣付けていきましょう。給食の前には、机の並べ替えやテーブルクロスをしきこと、給食当番は白衣の着替えを終わってから、手洗いにいくようにしましょう。手洗いは、両手に石けんをつけて、つめ、指の間、手首まできちんと洗うようにすることが大切です。水飲み場や流しなどの見やすい場所に、絵や図でわかりやすく掲示しておくとういでしょう。



養護の教員と相談して歌を活用するなど工夫をしながら、手洗いを習慣付けていくようにしましょう。うがいの効果と方法については、養護の教員と連携しながら、児童に説明をして、具体的に水飲み場や流しで、うがいの方法について実際に体験させていくようにしましょう。

「手洗いの歌」の掲示



友達とのかかわりについて

様々な幼稚園や保育園、こども園から集まってきた子供たちにとって、小学校での生活は仲良しの友達がたくさんいた状況から一転して不安な気持ちが大きいものです。しかしそれはまた新しい友達を増やす機会でもあります。新しい出会いを楽しみながら進んで友達とかかわろうとする子供が増えるような手立てを考える必要があります。徐々に集団の中でかかわりを深めながら仲間づくりを進めていくことが学級づくりの中心になります。

教科学習の中で

名前を覚える活動・・・互いに自己紹介をする場面など

友達と一緒に活動しかかわりを深める活動・・・学校探検(生活科)、仲間づくり(算数)など

遊びを通して

学級全体でのゲーム・・・ハンカチ落とし、大縄跳び、フルーツバスケットなど

学校生活全体で

言葉遣い、あいさつ、物の貸し借りのお礼

友達のことをより詳しく知るために・・・朝の会でのスピーチ、健康観察の際に返事プラス一言、帰りの会で振り返りなど

小学校という新しい環境にとまどいがちな子供にとっては、幼稚園・保育園・こども園で経験したことを入学当初に取り入れることは、安心感を覚えることにつながります。

幼稚園・保育園・こども園で慣れ親しんだ手遊びや歌、言葉遊び、読み聞かせなどを、朝の会や学習の合間、帰りの会などに取り入れることは、緊張しがちな入学直後の子供たちにとって、安心感がもてる活動になります。カリキュラムの資料にある、「幼児と児童がともに楽しめる10の手遊び」「幼児と児童がともに歌える10の歌」「子供の心を育てる絵本・物語」「お勧めの絵本・物語20選」などを参考にしてみましょう。

基本的な生活習慣や学習習慣については、学校全体で方針を定めて、6年間の見通しをもって、計画的に、段階的に身に付けるように指導することが重要です。

小学校入門期の4、5月には、授業の展開の中にも生活習慣などの指導を組み込んで、ゆっくりと基本的な生活習慣や学習習慣についての指導を積み重ねていくことが必要です。

また、朝の会、帰りの会などの学級活動や日常的な学校生活全体を通して計画的に指導をしていくことが大切になります。学校における生活指導の全体計画にしっかりと位置付けていくようにしましょう。

